

二〇一五（平成二十七）年度

日本文学専攻博士論文・修士論文  
日本文学専修卒業論文題目一覧

博士

（二〇一五年九月授与）

時間的近接関係を表す複合辞の研究

HADUTOMO DWI ANGGORO

陳述副詞の史的研究

——推量を表す副詞を中心に——

古代語複合動詞の研究

（二〇一六年三月授与）

尾崎翠 砂丘の彼方へ

永井荷風論——復活期を中心に

中間報告書提出者

近代日中鉱物学用語と形成と交流

——『金石識別』を中心に——

形容動詞の史的変遷

明治期における美辞麗句

——文章表現の受容と再構築——

日本語における「因果」漢語の受容と展開

複合動詞の研究

——N + V 構造の複合動詞を中心として——

お伽草子『隠れ里』の研究

——文芸に取り込まれた福神信仰と、食への意識

修士論文提出者

龍の中のシステムとアメリカ

谷崎潤一郎小説論

新美南吉研究

太宰治の疎開文学

大正末期・昭和初期の日本文学における精神分析の受容——「島清事件」をめぐる精神分析

批判と佐藤春夫『更生記』を例として

模倣の文学

——現代文学における典拠の運用

『源氏物語』朧月夜の君の人物造型とその受容

井伏鱒二の詩——三つの時期にわけて

上代文献における用字の研究

——漢文の助動詞を中心として——

唐話に関する研究

——『唐話纂要』を中心に——

日本語「ない」表現の研究

「気」の意味とその変遷

複合辞の史的研究

——累加を意味する複合辞を中心に——

現代日本語における曖昧表現について

『あわびの大物語』論

——擬人化される貝の系譜——

「常盤物」作品群の興りとその継承

——常盤御前の機能に関する考察——

収集・継承・利用される軍記

——島原の乱関連軍記を通して

卒業論文提出者

多和田葉子『ペルソナ』論

西鶴の描く「恋」について

『好色一代男』名妓との関係から見る世之介の人物像

戦後高等学校古典教育と西鶴作品について

教材の変遷と文学教育

『井原西鶴の武家物浮世草子について』

「この物語の主人公は、異様である」と示すために

——『唐話纂要』を中心に——

オウヨウ

波木井優子

ウランダリ

四方舞

小泉奈生子

大石将也

大澤奈穂

平田祐子

佐藤奈津子

近澤鮎

林昂平

谷井美月

万代華子

紫の上——最も愛され、最も苦しんだ女性——

船口怜奈

『源氏物語』夕霧と雲居の雁

——主人公性の欠如——

藤本紗也

「土蜘蛛草子」に見える「土蜘蛛」表現について

趙大衍

『今昔物語集』卷二十七に見える怪異

——人々が恐れていたもの——

河村旭香

覚一本『平家物語』の表現研究

——屋島の戦いと壇の浦の戦いを中心に——

江川奈美

『沙石集』にみられる女性と往生

中島冴子

宇治拾遺物語に於ける表現の機能について

——猿神譚を視座として——

岩瀬丈

古熊本『狭衣の草子』にみる親子の姿

——諸本の本文比較を通して——

山田萌

ユタ文学にみる虚構性と混交性

丸山苑恵

ベストセラーとなる自己啓発本

——種類分けと人気の理由——

大浦春佳

現代語における擬音語・擬態語

島田実奈

松本清張「青春の彷徨」論

——「面白さ」への新たな挑戦——

武田笑美

三島由紀夫「午後の曳航」論

——創作ノートと地の文から——

深町菜奈絵

日本語における「間」に関する研究

山口恵奈

梶井基次郎「城のある町にて」論

互井友理

「武田泰淳『富士』論」

堀口真太郎

坂口安吾——「桜の森の満開の下」と「青鬼の禪を洗う女」における「鬼」と異界——

藤原真以子

「みる」における意味変化

坂本遥

「かすか」とその類義語

青柳沙恵

「国語に関する世論調査」とアンケートで行う若者言葉の分析と傾向

檀葵

坂口安吾「夜長姫と耳男」論

——耳男の選択——

梅澤美早